

[illegible]

		指示: 教員の演示した呼吸を観察する		第3回事前課題: 「血圧」部分の量が多く、理解がしにくい。イメージ化をはかるために、説明部分の言語情報の事前課題と併せて、血圧測定方法の動画等の視覚教材を見ておく事前課題を追加する。授業内の説明にて、その意味が理解できる
3	血圧・脈拍のを測定・評価する意義 ・脈拍 脈拍の測定方法 ・血圧 血圧の観察 バイタルサイン測定	説明: 循環系とは、意義 (テキストAを用いてp21～「血圧のアセスメント」) ・循環系の構成要素と機能: 循環系 (心臓と血管系、リンパ系) ・脈拍・血圧を測定・評価する意義 ・脈拍とは ・脈拍の測定方法、テキストBを参照しながら 演示: 脈拍測定の指の当て方のデモ、ポイントを説明しながら 説明: 観察のポイント テキストも参照p23 指示: 実際に自分自身の脈拍測定を行ってもらう 説明: 血圧とは: 血管を流れる血液が血管壁に及ぼす圧力。 発問: (変動因子をふまえ) 観察・測定のタイミングは? 説明: 成人における血圧値の分類、覚えるように説明 提示: 上腕式、手首式／自動、電子、アネロイド式等、多様な血圧計 発問: 違いは何か? 同じところは何か? 説明: 血圧計の各部の名称 説明: 測定部位 * 上腕式: 上腕動脈 * 手首式: 橈骨動脈 発問: 上腕動脈、橈骨動脈はどこか? (脈拍でおこなった) 説明: コロトコフ音の原理と読み取り (解剖生理学p196) 説明: スワンの点 * テキストAp26、図1-12参照 発問: どんな音がすると思うか? 演示: シミュレーターをつかってコロトコフ音 (スワンの点) を提示、解説 指示: 実物投影機を用い、測定板を表示し、コロトコフ音をよみとってもらう 演示: シミュレーターを用い血圧測定の一連をデモンストレーション 説明: 正確に測定するための注意事項 (血圧測定のポイントを演示しながら) 配布: 血圧計 (グループに1台) 指示: 血圧測定のポイントをふまえ、一緒に一つずつ行う 説明: 記録、報告 演示: 測定方法のデモンストレーション 演示: バイタルサイン測定の技術を看護の場面での行為としてデモンストレーション	前提テスト: 小テスト②: 脈拍・血圧とは (範囲: テキストB: p174～175 “心拍出量と血圧”、p194～203 ①血圧、②血液の循環) 第3回事後課題 * 確実にバイタルサイン測定ができるために必要な知識、手順などを各自でまとめる 1) 正確なバイタルサイン (T、P、R、BP) を測定するための方法 (ポイント) 2) 練習の過程で難しかったこと、解決したいことを挙げる (箇条書き)	演示: 授業科目A同様、「血圧測定」部分の評価基準の理解につながるデモンストレーションを行う (正しい方法→間違っていた方法→正しい方法) * 1
4	3) バイタルサイン測定の実際 (校内実習)	説明: ポイントの確認 <u>校内実習: バイタルサイン測定 3人/グループで役割を交代しながらバイタルサイン測定を行う</u> 説明: まとめ 正確な測定のためには。記録・報告 演示: 学生のできなかったところや補助教員のコメントをふまえ、正しい方法を説明をしながら行う 配布: 技術チェックリスト (バイタルサイン測定)	課題: 胸部白地図に肺葉・気管を記入 (次回事前課題) 課題: 呼吸器の症状 (テキストC: p134～138) ② 予習 (次回事前課題)	演示: ポイントの確認は、合格基準を理解するデモンストレーションにて行う (* 1同様) 自己練習を促し、校内実習に臨んでいる。補助教員が数名入り、できないところ、わからないところの解決のために、演示や補助付きの実施を行う 授業の最後に、少しの時間であっても技術の形成的評価を行い、自己課題を明確にする
技術確認タイム 1回目		自己練習と質疑応答、デモンストレーション		技術チェック: 「血圧測定」

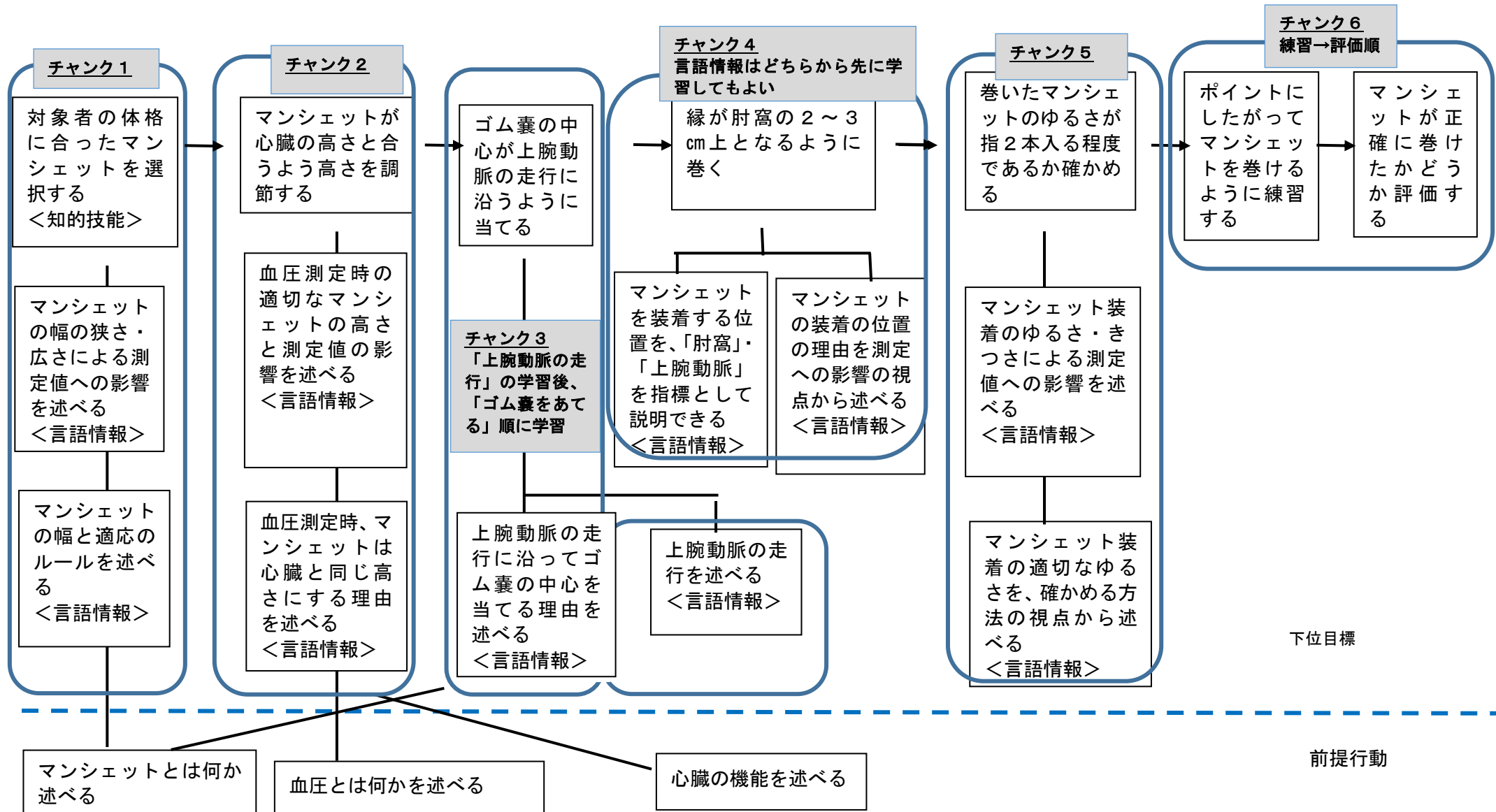
技術確認タイム 2回目		技術テストに関する説明,技術の質疑応答		
試験	技術テスト(バイタルサイン測定)			
	筆記試験			

血圧測定 マンシェットの巻き方 の課題分析図とチャンク

■学習目標：対象者の体格に合ったマンシェットを選択する

<知的技能>

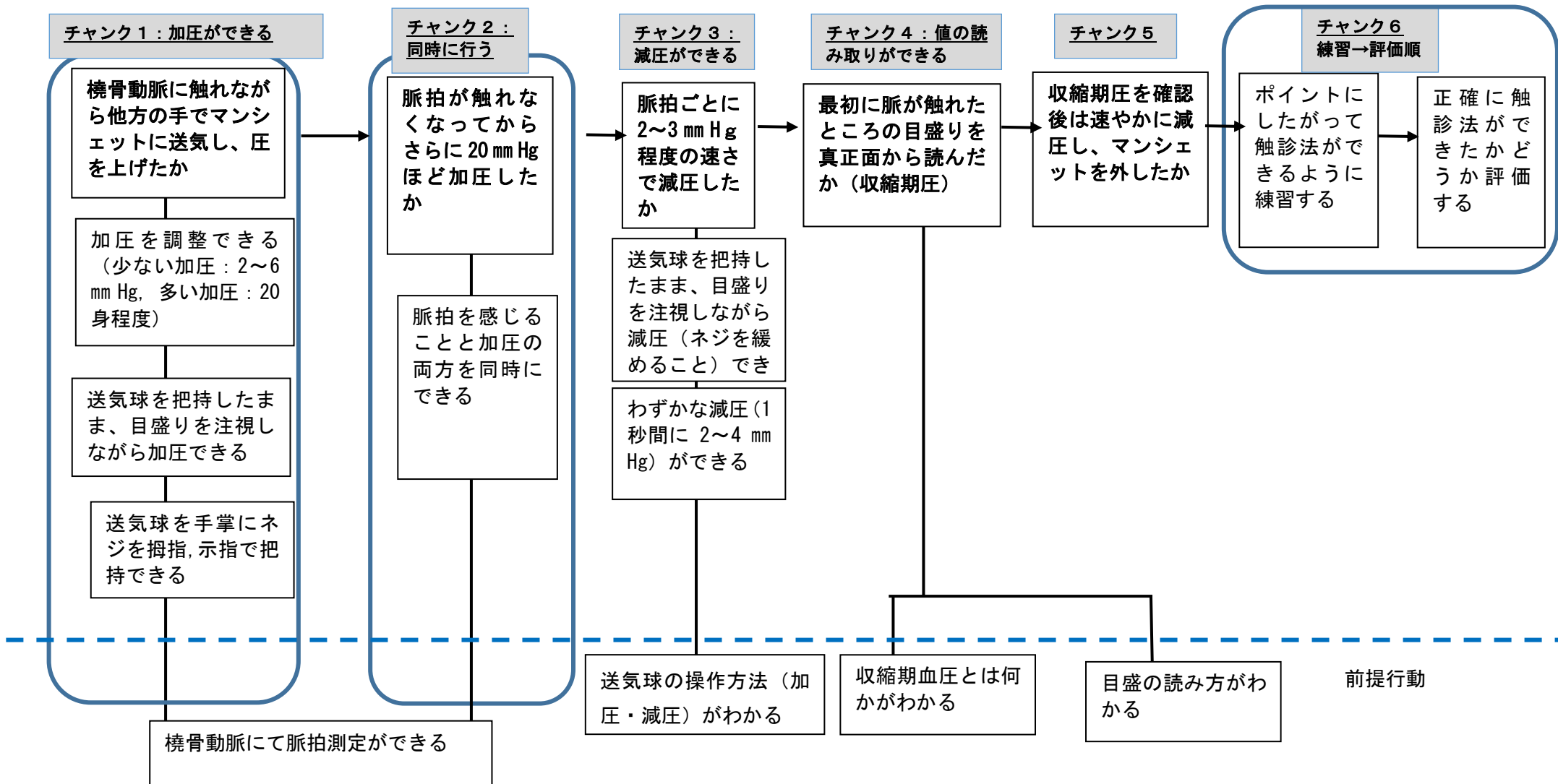
対象者の上腕にマンシェットを正確に装着することができる <運動技能>



血圧測定 触診法 課題分析図

■学習目標：対象者の血圧を触診法により測定できる <運動技能>

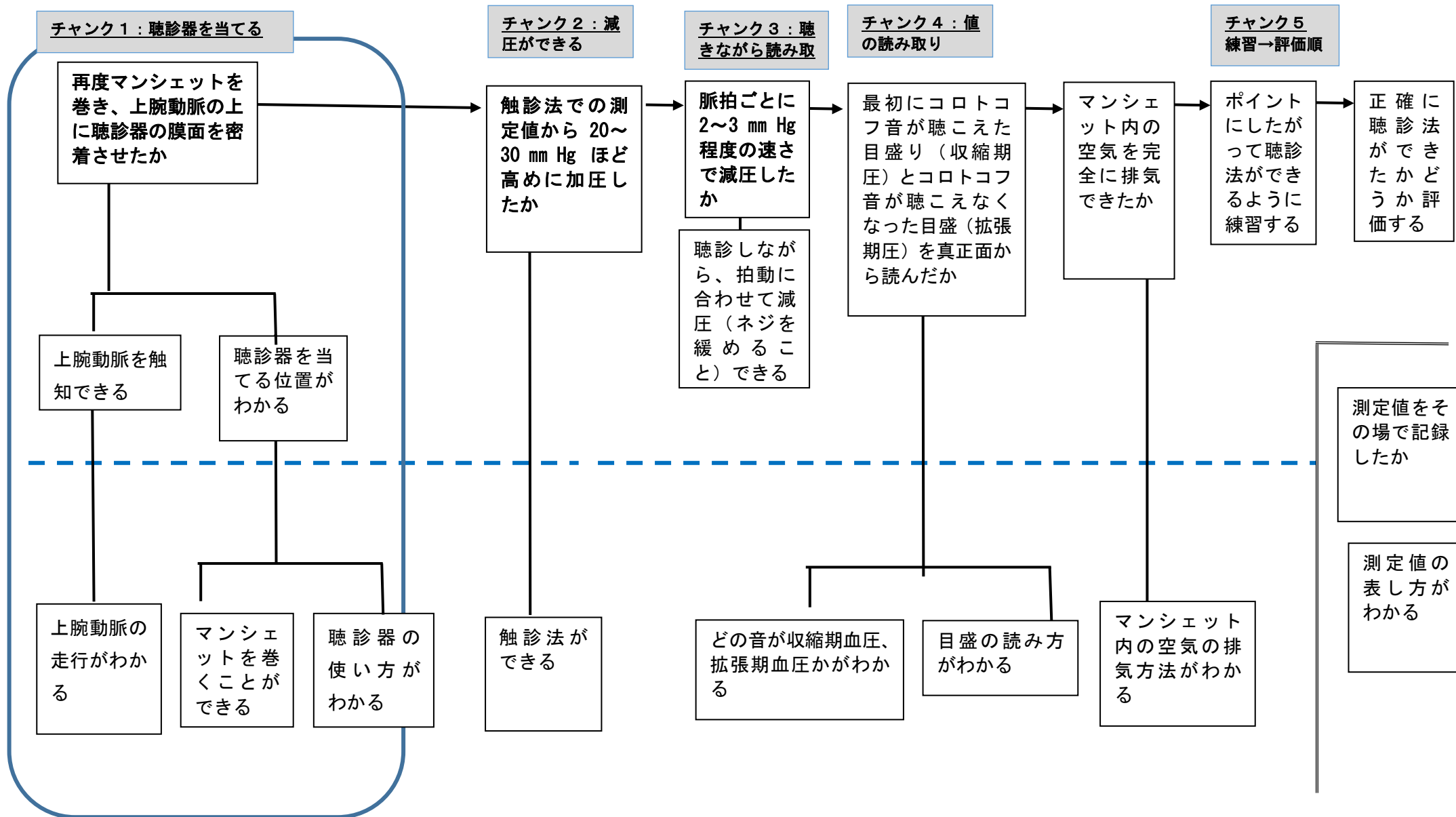
■課題分析図：触診法（「マンシェットを巻く」以降）



血圧測定 聴診法 課題分析図

■学習目標：対象者の血圧を触診法により測定できる <運動技能>

■課題分析図：聴診法（触診法以降）



「バイタルサイン測定」の 基本技術を身につけよう！



学籍番号

氏名

この教材の使い方

この冊子は、「バイタルサイン測定の基本技術を身につける」ための、学習教材です。付属教材として模擬テスト用チェックリストもあります。

（血圧測定用、バイタルサイン測定用）

技術を身につけるにあたり、授業と授業外の自己学習にて、ひとつひとつステップをふんで身につけていきます。

第2回～第4回の授業では持参してください。また、授業外での自己練習時にも使えるようになっていきますのでお使いください。

あなたの技術習得をサポートします。

バイタルサイン測定の基本技術が身につきますよ！

学習目標：モデルの学生に、チェックポイントをふまえてバイタルサイン測定ができる（技術テスト）

合格基準：制限時間内に、チェックリストの項目が全て○となる

GOAL !

バイタルサイン測定の模擬テストを
してみよう,p23

報告できるように
なろう,p20

STEP 3

全体を通そう

スムーズさ・時間を意識しよう p22

【技術チェック】

（血压測定）

* 現時点の習得度を
知ろう

血压測定の模擬テスト
をしてみよう,p21

【技術指導】

（授業外）

* うまいかなかったところを
解決しよう

【第4回】

* グループに分かれ
実演,補助します。
教員を活用しよう！

STEP 2 何も見ずにできるよう練習を重ねよう

必要な準備が
できる

p6

第2, 3回授業

体温測定
ができる

P7,8

第2回授業

脈拍測定
ができる

P9,10

第2回授業

呼吸測定
ができる

P11,12

第3回授業

P13~

①

マンシェット
を巻くこと
ができる

第3回授業

p16

②

加圧・減圧が
できる

送気球・減圧
弁の操作が
できる

血压測定（聴診法）ができる

③

触診にて、
血压を読み
取ることが
できる

p17

第4回授業

④

コロコフ
音を聴取
することが
できる

p18

START STEP1 正しい方法を理解しよう,教材を参照しながら正しくできるようになろう

【授業前】

* 事前課題があります

【授業】

正しい方法の知識を理解 / * 良い例・悪い
例をみながらチェックリスト項目を理解します

【授業後】

* 事後課題があります

授業・授業外（自己練習）の準備

- バイタルサイン測定に使用する物品は、全て看護実習室の教材室 1 にあります。
授業内で物品を紹介しますので、大いに使用してください。
- **自己練習では、血圧計（アネロイド式）と筆記用具**、を手元においてください。
- お互いに協力しあい、あなたの学習に協力できる方を探しておきましょう。
- 各ステップおよび最終ステップの技術テスト本番さながらの練習（自己模擬テスト）を行うときは、これまでの練習相手でない人の協力を依頼しましょう。
- この教材には線を引いたり、空欄に記入したりして、自由に書き込んでください。
- テキスト 1 には動画QRコードも載っています

【ページの構成,使い方】

【タイトル】

知識の小テストもあります

授業内で使用する（網掛け部分）

- ・「知識」欄：用語を含め、チェック項目の意味（何が良くて、何が悪いのか）がわかったら、「○」と記入してください。疑問等はメモをしておこう。
- ・「①～③」欄：デモンストレーションおよび授業内ミニチェックにて、使用します

【第○回授業】

↑ いつ使用するかを示しています

困ったとき、分からないときなど、参照するとよい教材ページの紹介やコメントです

できたかどうかの答え合わせにも活用できます

このステップで身につけるべき内容。「評価項目」を示しています。必要に応じ具体的な合格基準を（ ）に示しています

評価項目（合格基準）		わかったら ○をつける	できた：○、できない：△						メモ	参照, コメント
		知識	①	②	③					
規定の服装、身だしなみを整えた（頭髪、爪、アクセサリ類）										例）基礎看護方法論の手引きp1を参照
1. 物品の準備	必要物品を準備できたか （電子体温計、アネロイド式血圧計、聴診器、秒針付時計、アルコール綿、記録用紙、速乾性手指消毒剤、トレイ、膿盆、これら全ての物品を援助開始前に準備できれば○、実際に測定を始めてから不足に気づくのは×）									
	測定器具の点検ができたか （体温計は数字が出るか、アネロイド式：針が○を指しているか（範囲内にあるか）、全てを確認できて○）									
	対象者の腕に合ったマンシェット（カフ）を選択できたか （袖口が滑らかに滑る、矢印で示された位置に正しい位置に巻き付けられる）									
3. 環境調整										
ベッドのストッパーがかかっていることを確認したか （ベッドのストッパーがかかっていることを目視または実際に踏んで確かめれば○）										

授業外の自己練習・評価で使用する（白い部分）

例）できたら○、できなければ△ と記入するなど、自己の課題が明確になるよう自由に使ってください

このステップを終える目標期限を示しています

□ 次回の授業（○/○）までに達成しよう

【準備】

【STEP1】正しい方法を理解しよう,教材を参照しながら正しくできるようになろう 【第2,3回授業】

評価項目（合格基準）		わかったら○をつける	できた：○、できない：△					メモ	参照, コメント
		知識	①	②	③				
規定の服装、身だしなみを整えた （頭髪：襟につかない、顔にかからない、爪：手掌から見て爪が出ていない、アクセサリーをつけていない、規定のユニフォーム・名札を着用している、これら全てできて○）									基礎看護方法論の手引きp1を確認！
1. 物品の準備	必要物品を準備できたか （電子体温計,アネロイド式血圧計、聴診器、秒針付時計、アルコール綿、記録用紙、速乾性手指消毒剤、トレイ、膿盆、これら全ての物品を援助開始前に準備できれば○,実際に測定を始めてから不足に気づくのは×）								
	測定器具の点検ができたか （体温計は数字が出るか,アネロイド式：針が0を指しているか（範囲内にあるか□,全てを確認できて○）								
	対象者の腕に合ったマンシェット（カフ）を選択できたか （インデックスラインがカフ上で2本の矢印で示されたレンジにおさまっていれば○）								インデックスライン：このテキストのp15参照
2. 対象の準備	対象に測定の目的・方法を説明し、同意を得ることができたか（目的、体温、脈拍、血圧測定をすることを説明できれば○）								
	測定値の変動因子を取り除いたか（安静状態・室温20℃前後・発汗を確認し、必要に応じて調整できれば○）								テキスト1、87,92、は” 32参照
3. 環境調整	ベッドのストッパーがかかっていることを確認したか （ベッドのストッパーがかかっていることを目視または実際に踏んで確かめれば○）								

□第4回の授業（10/6）までに達成しよう

【知識確認 小テスト 体温測定】

- 1 体温測定では、体温計の感温部が（ **最深部** ）に位置するように挿入する。
- 2 腋窩での体温測定では、体側に対し、体温計が約（ **45** ）度の角度になる

→答えは、次のページにあります

【体温測定】

【STEP1】正しい方法を理解しよう,教材を参照しながら正しくできるようになろう

【第2回授業】

評価項目（合格基準）	わかったら ○をつける	できた：○、できない：△						メモ	参照, コメント
	知識	①	②	③					
体温計の感温部が腋窩の最深部に位置するように挿入する、または挿入方法の説明をし、できていることを確認できたか （体温計が体側に対し約45°の角度で挿入していれば○）									テキスト 1,91, “は” 33 参照
感温部が測定部位と密着するようにしたか （腋窩測定：上腕と大胸筋を密着させていれば○）									同上
測定値を正確に確認し、その場で記録したか （測定値を誤りなく、即、単位もつけて記録していれば○）									
体温計はアルコール綿で拭いてから収納したか （感温部、全体を拭けていれば○）									

□第4回の授業（9/28）までに達成しよう

【STEP1】正しい方法を理解しよう,教材を参照しながら正しくできるようになろう

【知識確認 小テスト 脈拍測定】

脈拍測定では、（ **橈骨動脈** ）に沿って示指・中指・薬指の三指をそろえ、指腹を軽くあて（ **1分** ）間測定する。

数だけではなく（ **リズム** ）・（ **強さ** ）も観察する。

→答えは、次のページにあります

【脈拍測定】

【第3回授業】

評価項目（合格基準）	わかったら ○をつける	できた：○、できない：△						メモ	参照, コメント
	知識	①	②	③					
橈骨動脈にそって示指・中指・薬指の3指をそろえ、指腹を軽くあて1分間測定したか （橈骨動脈に沿う,3指をそろえる,指腹を軽く当てる,1分間測定する,これらが全てできていて○）									テキスト 1,95, “は” 24参照
数・リズム・強さを観察したか （正確な数,リズムの整・不整,強さを測定していれば○）									強さの指標は、 テキスト “は” ,24参照
測定値をその場で記録したか （上記の結果全てを即、記録していれば○）									脈拍の測定後、呼吸測定に移りますので、値を記憶しておいてください。記録は呼吸測定の後です

【STEP1】正しい方法を理解しよう,教材を参照しながら正しくできるようになるう

【知識確認 小テスト 呼吸測定】

呼吸測定では、対象者に（ 意識させない ）ように、
（ 胸腹部の動き ）を1分間観察する

→答えは、次のページにあります

【呼吸測定】

【第2回授業】

評価項目（合格基準）	わかったら ○をつける	できた：○、できない：△						メモ	参照, コメント
	知識	①	②	③					
対象に意識させないように胸腹部の動きを1分間観察し、測定したか （対象に意識させない、胸腹部の動きを、1分間観察のすべてができていれば○）									テキスト 1,96参照
数・リズム・深さを観察したか （正確な数,リズムの整・不整,,深さを測定していれば○）									強さの指標は、 テキスト“は”、 18参照
測定値をその場で記録したか （上記の結果全てを即、記録していれば○）									

□第3回の授業（9/28）までに達成しよう

【知識確認 小テスト 血圧測定】

- 1) マンシエットの幅は上腕周囲の (40) %が適切である
- 2) マンシエットのゆるさは、(指2本入る) 程度となるように巻く
- 3) マンシエットの位置は、肘関節より (2,3) cm中枢側となるように巻く
- 4) 触診法では、(橈骨動脈) に触れながら加圧する
- 5) 聴診法では、(コロトコフ) 音を聴取する。血管音の相（スワンによる分類）では、収縮期血圧は、第 (1) 点である。

→答えは次のページにあります

【血圧測定／マンシェットの巻き方】

【第3回授業】

評価項目（合格基準）	わかったら ○をつける	できた：○、できない：△						メモ	参照, コメント
	知識	①	②	③					
血圧計を目盛を読み取りやすく安定する場所に置いたか （マンショットに目盛が見やすいように真正面に取り付ける、安定する場所に置いていれば○）									
測定側の袖をまくる場合、上腕を圧迫していないか									
測定部位が心臓の高さと合っているか									
上腕動脈の真上にゴム囊の中心（または上腕動脈のインデックスライン）がきているか 〔上腕動脈とゴム囊の中心とのずれが2cm以内であれば○〕									次のページ参照 テキスト1、 102、は”28 参照
マンシェットの下縁が肘窩の2～3cm上であるか									同上
マンシェットの巻き具合は、マンシェットと腕の隙間に指が2本入る程度であるか （2指入る程度か巻き具合を確認し、ゆるくも、きつくもないように巻けていれば○）									同上

血圧測定小テストp13の答え：1）40, 2）指2本入る, 3）2, 3, 4）橈骨動脈, 5) コロトコフ, 1

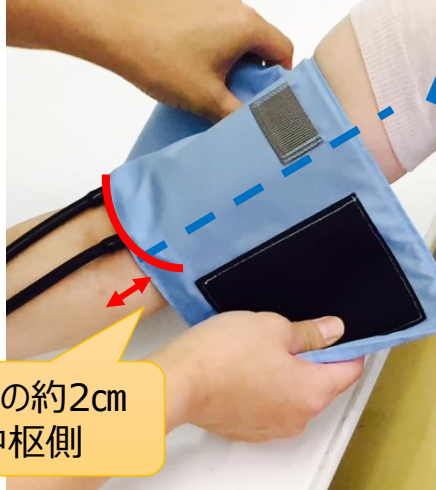
□第4回の授業（10/○）までにクリアしよう

【マンシエットの位置の合わせ方】

上腕動脈の走行を確認



肘窩の約2cm
中枢側

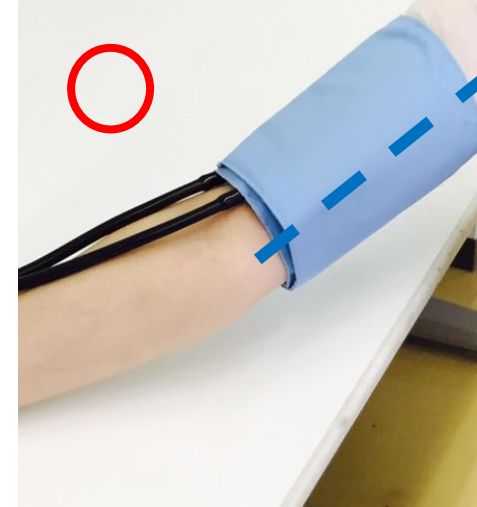


上腕動脈の走行に、
ゴム囊の中心を合わせる

合わせた位置を固定しながら、
ずれない、ゆるまないようにして
巻きます



巻きながら、固定し
ていた片手を抜い
ていく



ゴム囊の中心が、
上腕三頭筋側に
なっている

インデックスライン



マンシエットの仕様が違って
ポイントと同じ！

【送気球の操作について】OKなら☑,もう一つの□は第4回授業で使います

授業 自分

- ☐ ☐ 利き手で持っていますか
- ☐ ☐ 送気球は手掌に、ネジは拇指が上、示指が下になるように持っていますか
- ☐ ☐ ネジを閉める方向、緩める方向はわかりましたか
- ☐ ☐ 加圧してみて、空気の抜ける音はしませんか



ネジを閉める向



ネジ緩める向

【練習してみよう】OKなら☑,もう一つの□は第4回授業で使います

※練習の協力者の腕に負担のかからないように注意してください。

※一人で練習するときは、マンシエットは折りたたんで片手で把持してください

授業 自分

- ☐ ☐ 100mmHg まで加圧（送気球を押す）した後、減圧（ネジを緩める）しましょう
- ☐ ☐ 1回加圧するごとに、約20mmHgとなるよう練習してみましょう。（0～100mmHgの間で）
- ☐ ☐ 1回加圧するごとに、約2～4mmHgとなるよう練習してみましょう。（100mmHg 以上で）
- ☐ ☐ 1秒に2～3mmHgの速度で減圧できるよう練習してみましょう。

【血圧測定／触診法】

【第4回授業】

評価項目（合格基準）	わかったら ○をつける	できた：○、できない：△						メモ	参照, コメント
	知識	①	②	③					
橈骨動脈に触れながら他方の手でマンシェットに送気し、圧を上げたか （橈骨動脈に触れながら、他方の手で送気できていれば○）									・ 橈骨動脈の触れ方は、脈拍測定と同じ要領 ・ 送気球のネジは閉まっていますか?? ・ 60,~70mmHg までは一気に加圧してよい
脈拍が触れなくなってからさらに20mmHgほど加圧したか （脈拍が触れなくなっているからの加圧が20mmHg ±6mmHg以内、他方の手で送気できていれば○）									テキスト1,101~慎重に
2~3mmHg / 秒程度の速さで減圧したか （減圧のスピードは2~3mmHgより、速くも遅くもなければ○）									・ うっ血させてしまわないように注意
最初に脈が触れたところの目盛りを真正面から読んだか（収縮期圧）									
収縮期圧を確認後は速やかに減圧し、マンシェットを外したか （速やかに減圧し、マンシェットを外していれば○）									

□血圧測定の技術チェック前までに（10/31）までに達成しよう

【血圧測定／聴診法】

評価項目（合格基準）	わかったら ○をつける	できた：○、できない：△						メモ	参照, コメント
	知識	①	②	③					
再度マンシェットを巻き、上腕動脈の上に聴診器の膜面を密着させたか （再度マンシェットを巻きなおしている、上腕動脈の上に聴診器の膜面を密着する、両方できていて○）									テキスト 1,101～参照
触診法での測定値から20～30mmHgほど高めに加圧したか									同上
脈拍ごとに2～3mmHg程度の速さで減圧したか （減圧のスピードは2～3mmHgより、速くも遅くもなければ○）									同上
最初にコロトコフ音が聞こえた目盛り（収縮期圧）とコロトコフ音が聞こえなくなった目盛り（拡張期圧）を目の高さと同様に水平にして読んだか （収縮期・拡張期それぞれ±6mmHg以上の誤差がなければ○）									テキスト1、 100 “は” 27 参照
マンシェット内の空気を完全に排気できたか									
測定値をその場で記録したか （血圧の測定値を即、記録していれば○）									

【聴診法の練習時、周りは静かに！】

- ・聴診をしている人の周りは静かとなるようお互いに協力しましょう
- ・必要であれば、演習室を使用して構いません。教員に申し出をしてください。

【測定値は妥当か確かめたいとき】

練習例)

- ・ダブルステイトスコープを使用して、測定値を、お互いに伝えあってみる
- ・自動血圧計で測定を試みる
- ・他の学生に測定してもらう

【技術指導（授業外）】

第4回以降の授業外の技術指導は、日程は掲示板でお知らせします。参加は個人でもグループ単位でも構いません。疑問やうまくいかないところは解決しよう！

【報告】

【第4回授業】

評価項目（合格基準）	わから○ をつける	できた：○、できない：△						メモ	参照, コメント
	知識	①	②	③					
体温、脈拍、呼吸、血圧の測定値を正確に報告したか（記録用紙に、測定値が正確に単位まで記載できていれば○）									結滞の例：テキスト“は”,24参照
脈拍・呼吸のリズム、脈拍の強さ、呼吸の深さ、随伴症状の有無など観察できたことも報告できたか（記録用紙に、上記の観察したことが記載できていれば○）									

【環境整備】

評価項目（合格基準）	わから○ をつける	できた：○、できない：△						メモ	参照, コメント
	知識	①	②	③					
ベッド周囲の環境を整え、使用した物品を片付けたか（周囲を整え、片づけられていれば○）									

【血圧測定 技術チェック（11月 日）にむけて】

- ・技術チェックに向けて、克服しておきたいところをメモしておこう

ここまで、がんばりましたね。では、「血圧測定について」おさらいの「模擬テスト」（別紙）を行いましょう。
対象者はこれまで練習の相手になったことのない人に協力依頼しましょう。

【体温・脈拍・呼吸測定についても何も見ずにできるよう練習しておこう】

課題をメモしておこう

【全体】

評価項目（合格基準）	わからら○ をつける	できた：○、できない：△						メモ	参照, コメント
	知識	①	②	③					
規定時間内にできたか（20分） （準備から報告までを20分以内でできれば○）									スムーズにお行えるよう、一連を通して練習しよう
対象に声をかけ、確認しながら行ったか （体温・脈拍・呼吸測定前後に声をかけ、反応を確認できていれば○）									測定した人に感想を聞いてみよう

準備から後片付け、報告までスムーズに行えるか、バイタルサイン測定技術テストに向け、残された課題をメモしておこう

【バイタルサイン測定 技術テスト (12月 日)】

- バイタルサイン測定技術テストに向け、克服しておきたいところをメモしておこう

おわりに

ここまで、よくがんばりましたね。では、最後にここでおさらいの「バイタルサイン測定」の「模擬テスト」を行いましょう。

対象者はこれまで練習の相手になったことのない人に協力依頼しましょう。

技術テストまで、期間がありますので、忘れてしまわないよう、自分でルールを決めてあまり期間をあけないように練習することをお勧めします！

これでばっちりですね。

2015年度			2016年度		
※単元「バイタルサイン」：第2回～第4回					
授業回数	主題(大項目)・学習内容	方法	事前・事後課題	2016年度改善案（「技術チェックリスト自己学習教材」との運動をふまえ再度見直し） ※2015年度から変更案を記載	2016年度版技術チェックリスト（自己学習教材）との運動
1	【フィジカルアセスメント総論と基本技術】 1.ヘルスアセスメントとは 2.フィジカルアセスメント 1)フィジカルアセスメントとは 2)フィジカルアセスメントの基本原則 3)フィジカルアセスメントの基本技術：問診、視診、触診、打診、聴診 3.ヘルスアセスメントの方法 1)全体を観察する 2)器官別・系統的アセスメント 3)心理・社会状態のアセスメント	科目ガイダンス 説明：テキストを参照しながら説明 説明：デモンストレーションを行いながら、説明 説明：テキストを参照しながら説明	第2回事前課題：体温(テキストA:p28～31①②) 予告	>> 第1回事前課題：説明(講義)部分の言語情報について、事前課題(ポイントの整理)とし授業内で確認をする	・科目ガイダンスにて、「技術チェックリスト」を変更していること、自己学習教材としての活用を説明する
	2	4.バイタルサイン(体温・呼吸・脈拍・血圧) 1)バイタルサインの基礎知識 ・バイタルサインとは何か 2)バイタルサインの測定方法、評価 ・体温 ・体温の観察意義 体温測定の方法 ・脈拍 脈拍のを測定・評価する意義 脈拍の測定方法		(形態機能論での既習内容／範囲：テキストA:p14～16;①②、テキストB:③呼吸気量) 説明：テキストを参照しながらキーワードを説明 説明：「体温」はなじみがある。看護者としての測定の意義や正確な測定方法を知る(形態機能論での学習は未。テキストAp28参照) 指示：日頃どのように体温測定をしていますか？ボールペンを体温計にのみたて使って行ってみる 説明：体温と深部体温(身体内部の体温)＊中核温度、核心温度 説明：体温測定ではどの部位を測定すべきか。発問への回答につなげる 発問：どんな体温計を知っているか 説明：測定部位の説明(腋窩、鼓膜、口腔、直腸) 発問：どれが高温か（説明：直腸　＊腋窩は外気の影響を受けやすい） 説明：体温測定の方法(テキストBp85 図2-8、ポイント：テキストAp32～)テキストAp33図1-on 配布：電子体温計：1本/1～2人 説明：予測試・実測式の違い　＊スライドを用いて ・脈拍 脈拍のを測定・評価する意義 脈拍の測定方法	
3	・呼吸 呼吸の観察意義 呼吸の測定方法 ・血圧 血圧の観察	発問：呼吸とは？(説明→テキストA:p14～参照しながら) 前提知識の確認 発問：どのようにして呼吸している？ 提示：DVD／呼吸運動ガス交換 発問：このうち呼吸の観察でわかるものは？ 説明：回数・深さの観察の意義 説明：呼吸の異常(テキストBp91表2-12) 説明：呼吸数と深さの異常、リズムの異常、努力呼吸の名称、意味を覚える 演示：異常の呼吸 提示：呼吸の観察(DVD)胸式呼吸、腹式呼吸 説明：呼吸の観察のポイント(テキストAを用いてp18) 指示：教員の演示した呼吸を観察する 説明：血圧とは：血管を流れる血液が血管壁に及ぼす圧力。 発問：(変動因子をふまえて)観察・測定のタイミングは？ 説明：成人における血圧値の分類覚えてるように説明 提示：上腕式・手首式／自動電子・アナログ式等、多様な血圧計 発問：違いは何か？同じところは何か？ 説明：血圧計の各部の名称 説明：測定部位　＊上腕式：上腕動脈・＊手首式：橈骨動脈 発問：上腕動脈、橈骨動脈はどこか？(脈拍でおこなった) 説明：コロトフ音の原理と読み取り(解剖生理学p196) 説明：スワンの点　＊テキストAp26図1-12参照 発問：どんな音がすると思うか？ 演示：シミュレーターをつかってコロトフ音(スワンの点)を提示、解説 指示：実物投影機を用い、測定板を表示し、コロトフ音をよみてとってもらう 演示：シミュレーターを用い血圧測定の一連をデモンストレーション 説明：正確に測定するための注意事項(血圧測定のポイントを示しながら) 配布：血圧計(グループに1台) 指示：血圧測定ポイントをふまえ、一緒に一つずつ行う 説明：記録、報告 演示：測定方法のデモンストレーション 演示：バイタルサイン測定の技術を看護の場面での行為としてデモンストレーション	前提テスト：小テスト②：血圧とは (範囲：テキストB:p174～175”心拍出量と血圧”、p194～203①血圧、②血液の循環)	第3回事前課題：説明(講義)部分の言語情報について事前課題とし、授業内で確認をする。 ※前提テストもあり、事前課題の量は負担が大きくならないように留意する 第3回事前課題：「血圧」部分の量が多く、理解がしにくい。イメージ化をはかるために、説明部分の言語情報の事前課題と併せて、血圧測定方法の動画等の視聴教材を見ておく事前課題を追加する。授業内の説明にて、その意味が理解できる	・知識部分の講義時、「呼吸測定」の該当ページを参照してもらう。 ・正しい方法と、誤った方法のデモを行い、チェックしてもらい、教材に記入する。(授業内で使用欄)チェック項目の知識の確認を行う
			第3回事後課題：＊確実にバイタルサイン測定ができるために必要な知識、手順などを各自でまとめる 1)正確なバイタルサイン(T、P、R、BP)を測定するための方法(ポイント) 2)練習の過程で難しかったこと、解決したいことを挙げる(箇書き)	指示：「マンシェットの巻き方」のポイントをふまえ、一緒に一つずつ行う 演示：授業科目A同様、「血圧測定」の「マンシェットの巻き方」の部分の評価基準の理解につながるデモンストレーションを行う(正しい方法→間違った方法→正しい方法)＊1 第4回事前課題：触診法・聴診法の言語情報を事前課題とする	・知識部分の講義時、「血圧測定」の「マンシェットの巻き方」の該当ページを参照してもらう。 ・正しい方法と、誤った方法のデモを行い、チェックしてもらい、教材に記入する。(授業内で使用欄)チェック項目の知識の確認を行う 事例(第3回事後課題は自己練習を本教材ですずめることとなる)
4	3)バイタルサイン測定の実際（校内実習） 一血圧測定(触診法・聴診法)	説明：ポイントの確認 校内実習：バイタルサイン測定 3人/グループで役割を交代しながらバイタルサイン測定を行う 説明：まとめ 正確な測定のためには、記録・報告 演示：学生のできなかったところや補助教員のコメントをふまえ、正しい方法を説明をしながら行う 配布：技術チェックリスト(バイタルサイン測定)	第5回事前課題：胸部白地図に肺葉・気管を記入 第5回事前課題：呼吸器の症状(テキストC:p134～138)②予告	指示：授業内のミニテスト(マンシェットの巻き方：形成的テスト) 演示：形成的テスト後、できなかったところは、補助教員が小グループ単位で演示したり、補助付き実施を行う 説明：触診法の方法の説明(演示しながら) 説明：聴診法の方法の説明(演示しながら) 指示：触診法・聴診法の本日の授業のまとめチェック(授業の最後のまとめとして、チェックする)(お互いに) 演示・説明：全体の実施状況、学生の反応から課題があれば把握し、再度正しいデモンストレーションを行う。必要時、誤った方法も提示し、違いを認識できるようにする。	・授業の冒頭で「マンシェットを巻く」を行ってもらい、お互いにチェックする。教材の「授業内で使用」欄に記入する。(ペアにて) ・知識部分の講義時、「血圧測定」の「触診法」の該当ページを参照してもらう。 ・正しい方法と、誤った方法のデモを行い、チェックしてもらい、教材に記入する。(授業内で使用欄)チェック項目の知識の確認を行う ・知識部分の講義時、「血圧測定」の「聴診法」の該当ページを参照してもらう。 ・正しい方法と、誤った方法のデモを行い、チェックしてもらい、教材に記入する。(授業内で使用欄)チェック項目の知識の確認を行う 事例(第4回事後課題は自己練習を本教材ですずめることとなる)
技術確認タイム 1回目		自己練習と質疑応答、デモンストレーション		技術チェック：「血圧測定」※時期としては、6回目授課の後となる予定	
技術確認タイム 2回目		技術テストに関する説明、技術の質疑応答			
試験	技術テスト(バイタルサイン測定) 筆記試験			※最終試験である（他の単元とは関連しないが、学校の規定上最終試験に位置づいている）	